

水木しげる氏

表紙絵

＝暑い日の行水は格別じゃな＝

表紙絵：水木しげる

- ・ 特集：令和5年度調布市立図書館に関するアンケート調査結果 2～3
- ・ 「中学生・高校生対象図書館アンケート」を実施しました！ 4～5
- ・ 「2024夏休みにすすめる本」を発行します 6
- ・ FC東京選手の私のすすめるこの一冊 7
- ・ 郷土の歴史と伝承 8

令和5年度調布市立図書館に関する アンケート調査結果

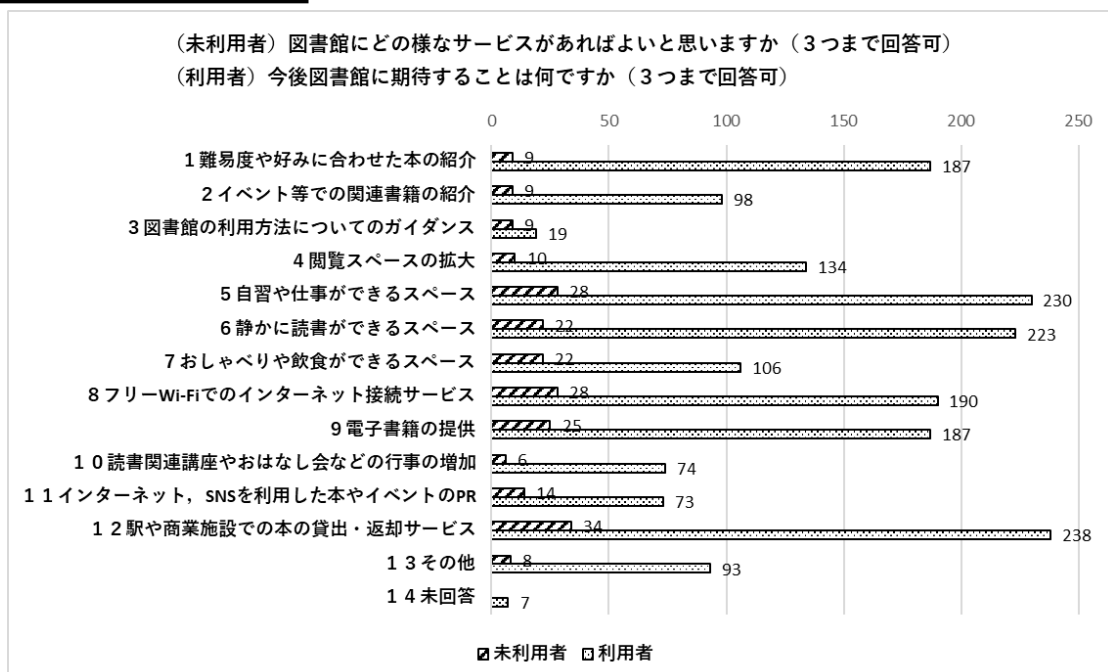
調布市立図書館では、今後の図書館運営の参考とするため、調布市立図書館を過去1年間利用していない方、過去1年間で1度以上利用した方を対象に、アンケートを実施しました。

1 調査概要

- (1) 調査期間 令和6年2月5日～26日
- (2) 調査対象 在住、在勤、在学の方
調布市立図書館を過去1年間利用していない方（未利用者）、
過去1年間で1度以上利用した方（利用者）
- (3) 調査方法 市報、掲示物、チラシを利用したインターネット回答フォームからの回答、
各図書館で紙の調査票を配布・回収
- (4) 回答件数 未利用者 97件 利用者 854件 計951件

2 結果（一部）

(1) 図書館に求めるもの



未利用者、利用者ともに1位が「駅や商業施設での本の貸出・返却サービス」で2位が「自習や仕事ができるスペース」となっています。利用者では、「難易度や好みに合わせた本の紹介」が上位に入っているのが特徴となっています。

(2) どんな時に本や雑誌を読みますか

○未利用者		○利用者	
1	時間があるとき (62%)	書店や図書館の書棚を眺めて目についたとき (56%)	
2	書店や図書館の書棚を眺めて目についたとき (46%)	時間があるとき (55%)	
3	新聞や雑誌、テレビなどのメディアで知ったとき (45%)	新聞や雑誌、テレビなどのメディアで知ったとき (55%)	
4	困りごとや生活に関する調べもの、情報収集をするとき (41%)	困りごとや生活に関する調べもの、情報収集をするとき (53%)	

「どんな時に本や雑誌を読みますか」という質問には、未利用者・利用者ともに順位に違いはあるものの、「時間があるとき」「書店や図書館の書棚を眺めて目についたとき」との回答が多くなっています。未利用者は特に「時間があるとき」の割合が多くなっています。

(3) 図書館で実施してほしい企画

○ 未利用者

- ・小説、ドラマや映画で話題に上がった時代にまつわる本や当時の人気のあった本の紹介
- ・鬼太郎や花火大会など地元特有の展示
- ・作家さんの講演会
- ・小学生が図書館に気軽に出入りでき、居場所となるような企画
- ・本屋大賞のような企画（（仮）図書館大賞） など



○ 利用者

- ・作家、編集者、詩人、絵本画家等作り手の講演会、読書会、トークイベント
- ・本の紹介（司書おすすめ、市民おすすめ募集、年代・属性ごとのおすすめなど）
- ・市民同士の交流（おすすめ本の紹介、読書会など）
- ・好みを図書館員に伝えて数冊選んでもらえるようなサービス
- ・子ども向けイベント（ワークショップ、バックヤードツアーなど） など

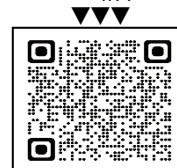
(4) この1年間図書館を利用しなかった理由(未利用者のうち「ほとんど読まない」以外を選択した方対象)

1	忙しくて行けない (36%)
2	本や雑誌は自分で買う (33%)
3	利用方法・場所がわからない (17%)

(2) の本や雑誌を読むのは「時間があるとき」との回答と「忙しくて行けない」との回答は関連が見られます。

未利用者・利用者ともに、本を読むのは、「時間があるとき」や、「書店や図書館の書棚を眺めて目についたとき」となっています。また、未利用者の図書館を利用しなかった理由として、「利用方法・場所がわからない」方が17%となっていることから、広報・周知の充実やサービス・企画について検討します。そのほか、アンケート結果をもとに、サービスを検討していきます。

アンケート結果はこちら



「中学生・高校生対象図書館アンケート」を実施しました！

調布市立図書館では、中学生・高校生の市立図書館の利用状況やニーズを調査し、YA（ヤングアダルト）サービス※の充実を図るため、アンケートを実施しました。その結果を一部抜粋してご紹介します。

※中高生世代の利用者に対して行うサービスです。

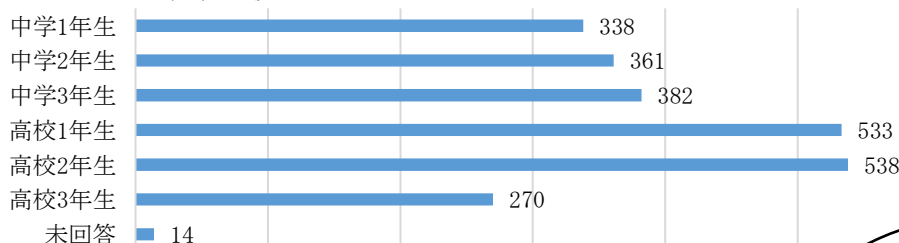
- 調査期間 令和5年11月13日（月）～12月15日（金）
- 調査対象 調布市内の学校に通う中学生・高校生（市立中学校8校、私立中学校4校、都立高校3校、私立高校4校）および調布市立図書館を利用する中学生・高校生
- 回答件数 2,436件

すべてのアンケート結果はこちらで確認できます。

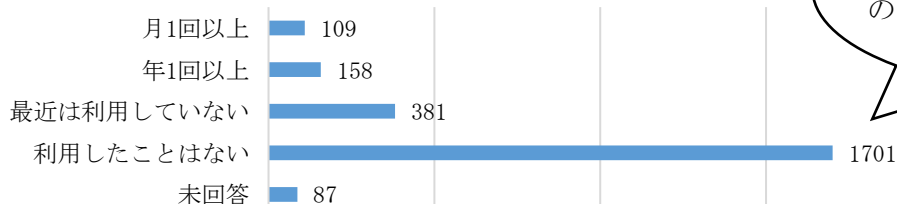


図書館 HP 二次元コード

○あなたの学年を教えてください



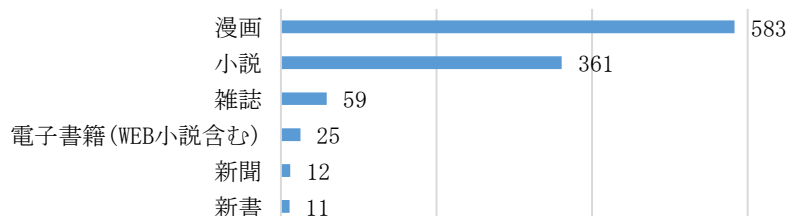
○図書館をどのくらい利用していますか



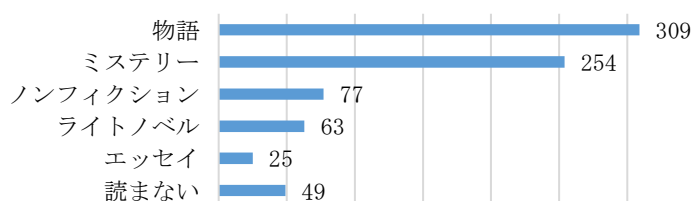
普段図書館を利用しない皆さんの声もたくさん集まりました！

○普段どんな本を読みますか

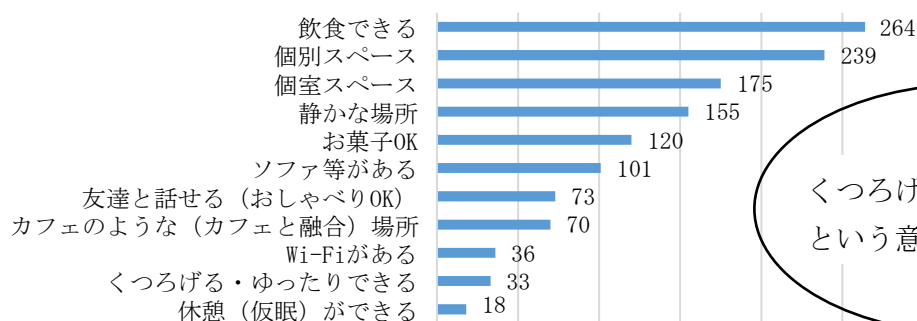
〈形態別〉



〈ジャンル別〉

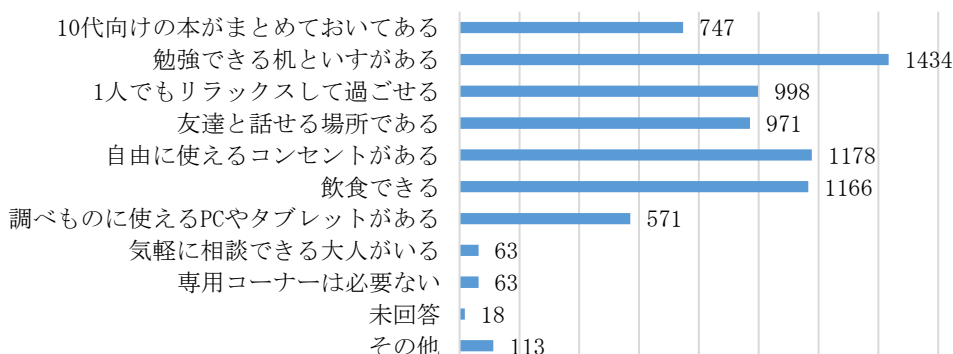


○理想の図書館像を教えてください

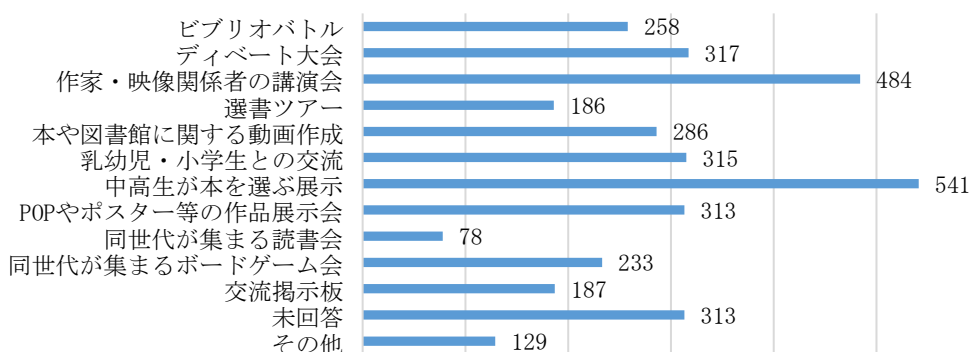


くつろげる空間が欲しい、
という意見が多いね

○YAコーナーに求めることはなんですか



○どんなイベントに参加したいですか



中高生の皆さん、アンケートへのご協力、ありがとうございました！
いただいた回答を参考に、展示・イベント等を企画していきます。

中央図書館に「YA コーナー」ができました！
このコーナーでは、中高生世代のみなさんに向けた展示をしています。



過去の展示はこんな感じ



↑「明大明治高校一年生
文庫本ハードカバー作品展示」



↑「市内高校のビブリオバトル
見学に行ってきました！」

「2024夏休みにすすめる本」を発行します

小学生におすすめの本を紹介したリストで、「1・2年生」、「3・4年生」、「5・6年生」と3つの種類があります。毎年、小学校の先生と協力して作成し、市立小学校の児童には学校を通じて配付しています。

その中には、『はじめてのキャンプ』（林明子さく・え 福音館書店）や『大どろぼうホツェンプロッツ』（オトフリート=プロイスラー著 中村浩三訳 偕成社）をはじめとする長く読み継がれてきた本や、『オバケだって、カゼをひく！ー内科・オバケ科ホオズキ医院ー』（富安陽子作 小松良佳絵 ポプラ社）といったちょっと怖い（？）本など、夏にぴったりの本を載せています。また、『ムーミン谷の彗星』（トーベ・ヤンソン著 下村隆一訳 講談社）のようにシリーズの本がたくさんあり、夏休みにじっくり読める本も紹介しています。

このリストは7月7日(日)に発行し、市内の各図書館で展示を行います。毎年、たくさんの子どもたちがこのリストで紹介した本を借りに来てくれます。

夏休みはぜひ、お近くの図書館に足を運んでみてください。

【ほかにもこのような本が載っています。】



「1・2年生」



『うみべのおはなし3 にんぐみ』

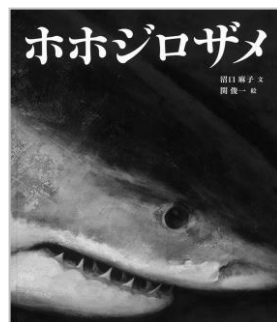
ジェイムズ・マーシャルさく 小宮由やく 大日本図書
すなはまでピクニックをしていた3にんぐみ。およぐまえに、ローリーがじぶんでつくったおはなしをします。すると、サムが「ぼくのほうが、もっとおもしろいおはなしができるよ!」といって…

「3・4年生」

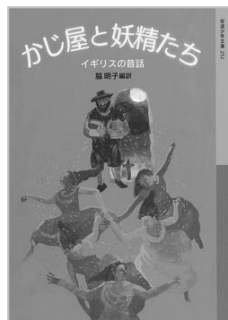
『ホホジロザメ』

沼口麻子文 関俊一絵 福音館書店

海のハンター・ホホジロザメは広い海の中でどうやって生活しているのでしょうか。サメたちの狩りや出産などが、はくりよくのある絵でしようかいされています。



「5・6年生」



『かじ屋と妖精たちーイギリスの昔話ー』協明子編訳 岩波書店
かじ屋のアラスデアが、妖精たちにさらわれた息子連れ戻しにいく冒険のお話「かじ屋と妖精たち」。他にも、ゆかいなお話、こわくてドキドキするお話など、イギリスの昔話が31編入っています。

調布市はFC東京を応援しています！

FC 東京選手の 私のすすめるこの一冊 2024



～ 図書館からスタジアムへ、スタジアムから図書館へ

お気に入りの選手がどんな一冊を紹介しているのか、ぜひご覧ください。

配布：調布市立図書館全館（図書館ホームページでもご覧いただけます）

展示：中央図書館4階のFC東京コーナー

掲載した本の展示と貸出をしています。



写真提供：FC東京



中央図書館4階FC東京応援展示コーナー

図書館若葉分館の建替え、移転に関する意見交換会

図書館若葉分館は、建替え・移転を予定しています。

新しくなる若葉分館が使いやすく魅力的な図書館となるよう、ご意見をいただく場を設けます。ぜひ、ご参加ください。

日時：6月29日（土曜日）14時～

会場：東部公民館 学習室 調布市若葉町1丁目29番地21

定員：30人 ※車での来場はご遠慮ください。

1. 湧水を利用した米づくり

米は早くから主食として、また田に課される租税として貴重なものでした。その米づくりには水が欠かせません。調布でも乾燥して畑の多かった土地では、武蔵野台地の地下から湧き出る水を利用して水田にしました。このような場所には、^{けいこく}溪谷の入り込んだ場所をさす「^{いりま}入間」をはじめ、深田や泥田の意味もあるという「^{ふだ}布田」といった地名が残されています。土地の象徴としての水田は、人々のくらしぶりを表し、地域社会を形づくるうえで大きな働きをしてきました。

2. ドブツ田の伝説

湧水の流れに沿った細長い形の水田は、日照りの時も水^{みづ}涸れしないかわりに、水はけの悪い湿地につくられました。このような湿地は「ドブツ田」などとよばれ、場所によっては、底なし沼のような田んぼとなっていました。

野川や^{いりまがわ}入間川沿いには、「ジジババ田んぼ」ともよばれ、農夫が足場をすべらせて沈み、助けようとしたおばあさんも引きずり込まれたという言い伝えがあります。そこで親たちはこの話を子どもに聞かせ、ドブツ田に近づかないように注意しました。

3. ^{つみた}摘田と湿地用具

そうした土地での米づくりに農民はどのような工夫をしてきたのでしょうか。

入間地区では、大正初期まで「^{つみた}摘田」という方法が行われていました。これは^{じかま}直播きといって、^{いねもみ}稲粃を肥料にまぜて田んぼにポツポツと置いていくという素朴なやり方です。

湿地での米づくりは年じゅう水温が低い湧水に頼るために、苗が枯れてしまったり、土がやわらかいので苗が浮いてしまったりしました。そこで平安時代の記録にもある直播きの方法がとられていました。身体が沈まないように田のなかに丸太などを埋めて足場にしました。

そして稲刈りには、カンジキ（不安定な地面を歩くためのはき物）

をはき、刈った稲がぬれないよう

に木製の^{たぶね}田舟に積んで運びました。



カンジキと田舟

4. ^{もち}糯ワラの利用

摘田でとれた糯米のワラには粘りがあるので、ワラじやじょうぶな縄をつくるのに適していたといわれます。^{かや}茅ぶき屋根のふき替えには、茅の束を屋根に結びつけるために大量の縄が要りました。また収穫した米や麦を入れる^{たわら}俵をしぼるのにも、その縄は使われました。

5. 人を結ぶ米の力

昭和初期までは、農家の食事といえば麦飯が中心でした。米は特別なもので、それゆえに人々の間で贈答される価値がありました。

仙川地区の旧家の記録では、明治25（1892）年の出生祝いや香典に、白米2升（約3kg）をもってきた家は近しい関係の10軒ほどで、ほぼ定まっています。この米は祝い事や葬式での会食に使われ、米をもらった家とお金だけ包む家とでは交際上、明確な区別がありました。

限られた土地条件のなかで、苦勞して作られていたお米。それは祭りや行事の際に神仏への供え物とされたり、力の源として人生の節目に食べられたりすることにより人々を結び、農村生活をささえる役割も果たしていたのです。

※参考文献 鏡味完二・明克『地名の語源』

『調布こぼれ話Ⅱ』

刊行物番号

2024-47

図書館だより 第271号

令和6年6月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>